

1 題材名 世界の民族音楽を味わおう ～歌唱の音楽から～

2 題材の目標

世界の民族音楽の特徴を感じ取り、それぞれのよさがあることに気付き、楽曲全体を味わいながら聴く。

3 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領解説音楽編（平成20年9月 文部科学省）（以下、解説と示す。）では、解説の第2学年及び第3学年におけるB鑑賞の指導内容ウにおいて、「我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。」と示されている。諸外国の歌唱を中心とした民族音楽を題材とすることは、音楽的な視点、国際理解教育の視点の両面から見ても意義が大きいと考える。

また、解説では、〔共通事項〕において、「音楽を形づくっている要素（以下、要素と示す。）や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取り、音楽に関する用語や記号などについて音楽活動を通して理解すること」が示されているとともに、より主体的な鑑賞活動を重視するために、「『言葉で説明する』、『根拠をもって批評する』などして音楽のよさや美しさを味わうこと」とも示されている。

生徒は音楽に溢れた中で生活している。特に音楽に関心の高くない生徒でもテレビ、ゲームその他あらゆるメディアから膨大な量の音楽、そして多種多様なジャンルの音楽に触れている。これらの音楽に内在している要素や構造を知覚し感受することができなければ、楽器の音色や歌声の多様さ、形式や構造のおもしろさなどに気付くことなく、ただ音空間の中にいるだけになる。また、生徒は膨大な量、多種多様なジャンルの音楽に触れているとはいえ、世界中の国、地域に根付いた音楽には未知なるものが無限に存在している。それらの中からほんの一部でも世界の諸外国の音楽に触れさせることで、世界観とともに音楽観を幅広くもてるようにさせたい。これらの学習により、生徒が生涯にわたって音楽を愛好し、音楽文化を継承していく聴き手になることを願ってこの題材を設定した。

(2) 生徒観

本校では、各学年の鑑賞領域において学期ごとに段階を踏んで学習が進められるようにしている。第2学年の生徒も、昨年度からこの1学期まで、資料1のように目標を設定しながら系統立てて鑑賞の学習を進めてきた。各題材の目標を達成させるため、感じ取ったことや味わったことは言葉（発言・記述）や絵で表す学習を継続して行ってきており、生徒の多くは、感じ取ったことや味わったことを自分なりの価値をもって言葉や絵に表すことを徐々に楽しいと感じられるようになってきた。

意識調査では本学級の86%の生徒が鑑賞の学習が好きであると答えている。「好き」の理由（複数回答可）では「新しい音楽に出会える。」「たくさんの曲を聴ける。」「心が落ち着く。（癒される）」を選択する生徒が多く、音楽を聴くことを楽しんだり、未知の音楽を受け入れそのよさを見いだそうとする姿勢が見える。その反面、「いいえ」と答えた生徒の中には、感じ取ったことや味わったことを言葉に表すことを難しいととらえており、学習としての音楽鑑賞を素直に楽しめていない生徒がいることが分かった。

また、「興味のある音楽」と「今後聴いてみたい音楽のジャンル」（いずれも複数回答可）からは、学級全体的に見て特定のジャンルに執着しがちな中学2年生にしては音楽に関して間口を広くした態度であることがわかる。

本校の第2学年の生徒は、第1学年時の鑑賞の学習を通して、感じ取ったことや味わったことを言葉や絵に表すことを楽しいと感じられるようになってきた。しかし、解説が示す「音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して」聴いたり、「根拠をもって批評する」ことができるまでには至っていない。この「理解する」や「根拠をもって批評する」をできるようにするためには、要素やその音楽の構造を言葉で表す積み重ねが必要である。

(3) 指導観

今回の教材は、中学生の音楽2・3上（教育芸術社）の「世界の諸民族の音楽（歌唱の比較や歌唱と音楽の関連に視点をのぞいたもの）」等である。学習の定着を図るねらいから、1学期に中学生の音楽2・3下（教育芸術社）の「世界の諸民族の音楽（舞踊の比較や舞踊と音楽の関連に視点をのぞいたもの）」等を教材として学習を行った。ここでは、中心となる要素として音色・リズム・テンポに着目させて指導した。音色は、様々な音色を言葉に表すことを、リズムとテンポは、両方を言葉として使い分けられることをねらいとしたところ、生徒は、リズムとテンポを区別して考えたり、言葉の上で区別して特徴を言い表すことなどができるようになった。この学習を受けて今回は、音色・リズム・テンポに加えて旋律・強弱などにも視点を当てて自分の耳で特徴を感じ取り、自分で言葉で表すことができるようにしたい。

また、それぞれの民族音楽の理解を深める手立てとして、映像資料や社会科の地理の資料なども駆使することで、地理的条件を確認したり音楽が演奏されている現地の映像を見ることは、土地の人々の生活を想像したり垣間見たりすることができ、文化や風土と結び付けて音楽全体を味わうのに効果が大きいと考える。また、それぞれの音楽に結び付く映像や日本民謡の音源を利用するなど工夫しながら楽しい授業をつくっていききたい。

資料1「本学年のこれまでの鑑賞の学習の経緯」

年	学期	題材	教材等	目標
1 学 年	1学期	情景を想像しながら聴こう	春	・楽曲の場面ごとの曲想を音楽を形づくっている要素を手掛かりにして感じ取り、情景を想像しながら聴き味わう。
	2学期	曲想を感じ取って聴こう	魔王	・人物ごとの表現の違いを情景や心情と結び付けながら感じ取って聴く。
	3学期	箏に親しもう アジアの諸民族の音楽	六段の調 さくら変奏曲 アジアの諸民族の音楽	・箏の音色の特徴を感じ取って聴く。 ・地域ごとの楽器の音色や旋律の特徴を感じ取って聴き比べ、それぞれのよさを味わう。
2 学 年	1学期	世界の音楽を味わおう - 舞踊の音楽を中心に -	フラメンコ セマー フープダンス レゴン ジェゴグ	・世界の様々な音楽の特徴を、音色・リズム・テンポを中心に感じ取って聴く。 ・世界の音楽は多様であり、それぞれのよさを見つけて楽曲全体を味わいながら聴く。

(4) 学習習慣の定着を目指して

鑑賞の学習には他者理解の精神が大切であると考え、本題材は国際理解教育の視点も含むので、なおのこと他者理解の精神が重要となってくる。鑑賞の対象となる音楽はもとより、それらを培ってきた異国の人々への理解と、教師も含め学習を共に創り上げていく仲間と意見を自由に交換できるような授業の雰囲気づくりを大切にしている。

4 学習計画及び評価計画（2時間取り扱い）

時	主な学習活動	評価規準	評価の観点		
			関心	感受	鑑賞
1	・世界の音楽を聴き、特徴を感じ取る。	世界の音楽の特徴を、音色・リズム・テンポ・旋律・強弱などに着目して記述したり発表したりすることに意欲的である。 (ワークシート、観察) 世界の音楽の特徴を、音色・リズム・テンポ・旋律・強弱などと結び付けて感じ取っている。 (ワークシート)			
2 本時	・世界の音楽について、音楽やその背景にあるものなどを味わう。	世界の音楽は多様でありそれぞれのよさがあることに気付き、音楽やその背景にあるものなどを味わいながら聴いている。(ワークシート)			

5 本時の学習

(1) 目標

世界の音楽は多様でありそれぞれのよさがあることに気付き、音楽やその背景にあるものなどを味わいながら聴いている。

(2) 展開

学習活動・内容	準備資料	題材のテーマを追求するための手立て (評 は評価)
<p>1 前時に学習した音楽を聴き、それぞれの特徴を音色・リズム・テンポ・旋律・強弱などとかかわらせて確認する。</p> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="193 616 683 730" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>世界の民族音楽を味わおう - 歌唱の音楽から -</p> </div> <p>3 それぞれの曲のよさを味わい、ワークシートに「私が思うこの音楽のよさ」について記述する。 地理的に位置を確認する。 演奏する人々の姿から生活や風土を想像する。 音色・リズム・テンポ・旋律・強弱などと曲想とのかかわりから感じ取ったことと、その理由をワークシートに書く。</p> <div data-bbox="209 1146 655 1375" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ヨーデル（アルプス地方） カッターリー（パキスタン） オルティンドー（モンゴル） ヒメネ（ポリネシア） ケチャ（インドネシア）</p> </div> <p>4 ワークシートに本時のまとめを行う。 (1) 全体を振り返っての感想を簡潔に書く。 (2) 課題をどれだけ達成したかを自己評価する。</p> <p>5 次時の学習内容をとらえる。</p> <div data-bbox="225 1944 683 2013" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>リコーダーに親しもう</p> </div>	<p>前回のワークシート</p> <p>C D</p> <p>ワークシート</p> <p>世界地図 T V D V D L D</p> <p>写真</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にそれぞれの曲に出会ったときの感動を呼び起こさせられるよう配慮する。 ・明るく友好的な雰囲気づくりをし、生徒の楽曲への興味と自由な発言を引き出し学習意欲を高揚させる。 ・本時の学習課題について、興味が持てるように提示し、学習が楽しみになるようにする。 ・社会科の世界地図で地理的に位置を確認し、地理的条件から気候や風土などを考える。 ・映像を見ながら、演奏する人々の生活や風土について想像が膨らむようにする。 ・世界地図やアニメーションの映像資料などを効果的に利用することで、生徒の民族音楽への興味を引き出す。 ・それぞれの曲の背景を理解した上で、前時に学習した特徴となる音色・リズム・テンポ・旋律・強弱などと曲想とのかかわりから感じ取ったことと、その理由を自分なりの言葉で記述する。 ・音楽やその背景にある文化や風土への理解を深めたり、親しみをもったりすることができるよう、モンゴル民謡のオルティンドーと日本民謡の追分節と対比させたり、指導者がインドネシアを旅行した際の写真を提示したりする。 ・文章表現に苦手意識を持ち記述が進まない生徒には、自分の言葉で自由に書いてよいことを話し、不安を取り除くようにする。 ・記入に必要なだけの時間配分を考慮する。 <div data-bbox="876 1641 1394 1870" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>(評) 世界の音楽は多様でありそれぞれのよさがあることに気付き、音楽やその背景にあるものなどを味わいながら聴いている。 鑑賞の能力（ワークシート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次時からの題材を予告し、学習用具の準備を呼びかける。